

大田区と東邦大学との共同研究について
「人生100年を見据えた健康寿命延伸プロジェクト」

1 目的

区民の健康課題や地域特性を18地域ごとに分析し、科学的根拠に基づく政策立案を行い、課題の解決と健康寿命延伸を目指す。

2 概要

(1) 研究期間

令和2年度～令和5年度（4年間）を予定

※東邦大学と本事業に関する個別協定を締結する。

(2) 研究内容

ア 行政情報の分析（毎年度）

区が保有する行政情報を18特別出張所の地区別に分析し、地区別の特徴、課題を把握する。

【行政情報の例】

人口・世帯構成、死因別死亡者数、国保・後期高齢被保険者の健診結果及び診療明細（レセプト）、がん検診結果、要介護認定状況、民生委員児童委員活動状況、町会・自治会加入率、公共施設利用状況、保育園数、図書館利用者数等

※各種情報については、該当部局に提供を依頼

※個人情報に関わる箇所は匿名化して大学側に提供

イ 質問票調査の実施（令和3年度、5年度を予定）

18地区別に約2,000人を無作為抽出し、合計36,000人を対象に調査を実施する。内容は、上記アでは把握できない区事業の認知度、個々の生活習慣、地域とのつながり（ソーシャルキャピタル）、属性（年齢・性別等）などを調査。令和3年度の対象者は、令和5年度も引き続き調査を実施し経年変化を確認する。新型コロナウイルス感染症による生活の変化も検討予定。

ウ 実装戦略への提言（令和4年度、5年度を予定）

ア、イの分析に基づき、大学から政策に関する提言を受け、区の健康施策への実装を目指す。

(3) 結果

地区別の健康課題や分析状況、政策提言などの報告を受け、公表する。

【参考：地域分析の例】

- ・ 健診（検診）受診率と生活習慣病有病率
- ・ 喫煙状況とがん等疾病の罹患率、死因別死亡率
- ・ コレステロール摂取状況と心疾患死亡率
- ・ ソーシャルキャピタル（近所づきあい、地域活動）と心身の健康度（ADL＝日常生活動作、抑うつ度） など

<分析イメージ>

